

なぐさめ塚について

熊澤 良嗣 調

「なぐさめ塚」は浅野公園入口手前、南東の一角にある。浅野の歴史家・森徳一郎氏の提唱で造られたもので、以前は一宮市常光町一本松塚 現在の一宮市緑で印田墓地（正式には常光墓地）の西辺りにその原形があった。

三代将軍家光のとき一本松塚において熱心なキリシタン信者4名が火焙りの刑に処せられており、更に尾張と美濃で3千人余りの人たちが死罪になったという。この史実を調べ上げた森氏が提唱して、昭和25年に木製の十字高札が一本松塚の地に建てられた。昭和42年には木曽川の石を使って、木製の十字高札から石の十字碑へと立替えられ、「水かけ十字碑」と命名し周囲に石柵が設けられた。ところが、この直後同地区で区画整理がおこなわれることが分かり市内のカトリック教会への移転も検討されたが、結局翌43年12月に現在地に移されたということである。

十字碑の裏面を見ると、「寛永八^{かのとひつじ}辛未（1631）九月廿一日」と刻まれている。これは一本松塚で4名が火焙りにされた日を示していると思われる。

また、十字碑の横に「なぐさめ塚」の由緒を示す碑が建てられており、そこには「昇天尾濃殉教三千聖人、謹奉棒聖人号 後学 森徳一郎」と刻まれている。これは尾張と美濃で処刑された3千人余のキリシタン殉教者に対して森徳一郎氏が捧げた言葉であり、後学は、「後学の徒」という意味で、（教会に断り無く）自分は勝手にこの殉教者たちを聖人と呼ばせていただくという森氏の気持ちを示している。

尾張と美濃で処刑された人が3千人とは大変な数であるが、一本松での残酷な処刑から30年を経た寛文元年（1661）以降にキリシタンが摘発された尾張の村々——切支丹^{でそろう}出候村の名前を以下に列挙する。

<丹羽郡>

浅野、北小渚、南小渚、多加木、三井、重吉、瀬部、和田、和田北村、勝佐、南高屋
北野、山尻、江森、下般若、南山名、北山名、小渚、岩倉、安良、大屋敷、長桜、外坪
小口、河北、羽黒、高橋、橋爪、善師野、今井、中切、学田、北島、小山、小折、石枕
力長、山王、前野、余野、斉藤、高木、下野、勘野、馬場、木津、天摩、柏森、野杵
五郎丸、犬山、犬山中切、岩手、曾本、古知野、芝原、河井、時之島、島宮、塩尻、東
野、上奈良、中奈良、下奈良、寄木、平島、佐野、御供所、町屋、森本、八劔、塔野地
曾野、五明

<葉栗郡>

黒田、大日比野、富塚、柴原、前野、前飛保、後飛保、宮田、草井、小杵、門間、福塚
江森、東浅井、西浅井、北方、佐千原、極楽寺

<中島郡>

赤池、陸田、小池、稲葉、宮後、野田、一宮、丸渚、中牧

なぜこれほど各地にキリシタンが存在したのだろうか。実際にはキリシタンでない人も含まれていたらしい。ありがたい説教・珍しい外国の話が聞けるというので法話の場へ顔を出したとか、その場へ来ていたらしいという告げ口だけで芋づる式に捕らえられたのだという。火焙りの刑は上記の4人が尾張藩では最初で最後だったが、彼らが熱心に布教活動をおこなったことが、村人たちに災いをふりまくことになってしまった。

それにこの地区ではこれより半世紀以上前、織田信長が稲葉山城（岐阜城）に居を構えていた頃は、信長はキリスト教を厚遇し宣教師を岐阜に呼んで教会も与えていた。キリスト教を歓迎する風土が醸成されていたわけである。そのほか、高山右近ゆかりの大和（奈良）沢城の教会守であった日本人宣教師コンスタンチノが、海部郡^{はなまさ}花正村（現・あま市花正）に帰ってきて盛んに布教したこともあったようだ。

メモ

以上は、森徳一郎著「尾張切支丹なぐさめ塚」（一宮史談会叢書 1 2）を主な参考資料として記述しました。

なお、「カトリック中央協議会」のホームページから、「Web 文書館」「公開文書」「情報ハンドブック」と進み、「情報ハンドブック 2009 巻頭特集記事」を選ぶと、上記の尾濃各地を訪問した人の非常に詳しい手記（写真付き）が閲覧できます。

